

評価大学 大学概要 2012

■評価大学について（沿革と特徴）

1973年（昭和48年）。戦後の焼け野原から先進国に追いつき、追い越したいと進んでいた日本社会が1つの転換点を迎えた年である。オイルショックによる経済の停滞など現実的な壁が我々の前に立ちはだかり、それは物質的な豊かさの追求にひとつの陰りを見せていた。そのような中、これからの我が国にとって、国民が持つ精神的な豊かさこそ、次の発展を支えるものなのではないか、との想いを抱いた。やがて、その漠然とした想いは、女子教育の充実による社会全体の精神的な豊かさの実現を図らなければならないという信念に変わり、ここ神戸市に評価女子短期大学（文学部）を設立させたのである。そこでは、家政、幼児教育、看護などの実学ではなく、文学という人類の英知の集積を基盤に、幅広い教養を涵養し、社会人として、また、家庭人として、豊かな精神性を持ち人々に奉仕する人材の育成を図ってきた。

本学における最初の転機は、バブル経済であった。未曾有の好景気に浮かれつつあるこの時期に、このような経済の奔流に、ただただ流されてしまうのではなく、根源的な経済理論を理解し、経済の流れを渡っていける人材を育成する必要性を感じた。そこで、1988年（昭和63年）に評価女子短期大学を4年制大学に改組した。現行の短期大学文学部を文学部とし、新たに経済学部を設置して、男女共学化した上で新生評価大学としてスタートさせた。また、この際にポートアイランドに校地を取得し、移転を行った。

バブル崩壊後のいわゆる「失われた10年」の中で、理論的な経済の理解だけでなく、経済理論を理解しつつも現実の企業経営に必要な人材を育成する必要性を痛感していた。そこで、1998年（平成10年）に経済学部を改組し、理論的な指向の教員を中心とした経済学部、実務家教員を含め、実践的な指向の教員を中心とした経営学部を設置した。

2000年代に入り、物質文明から知識基盤社会への移行、それに伴うグローバル化の進行が顕著になってきた。本学が建学の際に必要なと感じた精神的な豊かさが、本当の意味で求められる時代になったのである。そこで、知識基盤社会への対応として、2005年（平成17年）に経済学部の一部で行われていた情報学や計算機を用いた経済学の教育研究分野を工学部として再構成し、3つの学科を設置した。

現在の評価大学では、5年ごとに目標と計画を策定し、効果的なマネジメントを行っている。その一方で、各学部は、教育目標を定め、それぞれ優れた学生を社会に輩出する、という責務を果たすことに日々努力している。文学部では、日本文学科と外国文学部の2つの学科を置き、文学の礎として、ものごとの多面的な見方ができる力の涵養を目指している。近年は、中国文学に力を入れている。経済学部は経済学科の1学科で構成され、世界経済、日本全体の経済、そして地域経済の理論的な解明を目的としており、アカデミックなアプローチを基本とした経済学のエキスパート養成を目指している。経営学部では、経営学科と商学科の2学科を置き、それぞれ、永続的企業活動に資する経営のあり方や、マーケティングだけでなく神戸という地の利を活かしたロジスティクスに力点を置いた教育研究を行っている。工学部では、計算科学を用いた経済現象の解明を行ないつつ、金融工学などの新しい手法も組み入れたシステム情報工学科、通信機器やデバイスについての教育研究を行う情報通信工学科、本学に蓄積された情報科学、計算科学の教育研究力を自然科学の分野にまで適応するための応用計算科学科から

なる。

これら4つの学部の共通教育を支える組織として、共通教育センターを設置し、いわゆる全人教育としての共通的な教養だけでなく、それぞれの専門教育に必要な基礎教育も行っている。また、本学の研究成果等を社会に提供するインターフェイスとなる地域連携センターも2003年(平成15年)に設置している。

このように評価大学では、時代のニーズを敏感に感じ取り、それらを教育テーマに組み入れつつ、人間性に優れ、幅広い教養、高度な専門知識及び課題解決能力の育成を図るために、教職員一同、日々努力している。

■評価大学の目標 (2008年-2012年)

評価大学では、教育、研究、社会貢献及び国際交流に関して、以下の目標を掲げている。

教育

- ・人間性に優れ、幅広い教養、高度な専門知識及び課題解決能力を持つ学生を育成する。
- ・グローバル化を踏まえ、コミュニケーション能力の涵養を重視し、特に英語によるコミュニケーションスキルの向上を進める。
- ・学生の学習支援、生活支援を充実させ、質の高い学生生活が送れるように努める。特に、経済的支援を充実する。

研究

- ・教育内容の充実のために国際的水準の研究を実施するとともに、外部資金の獲得を図る。

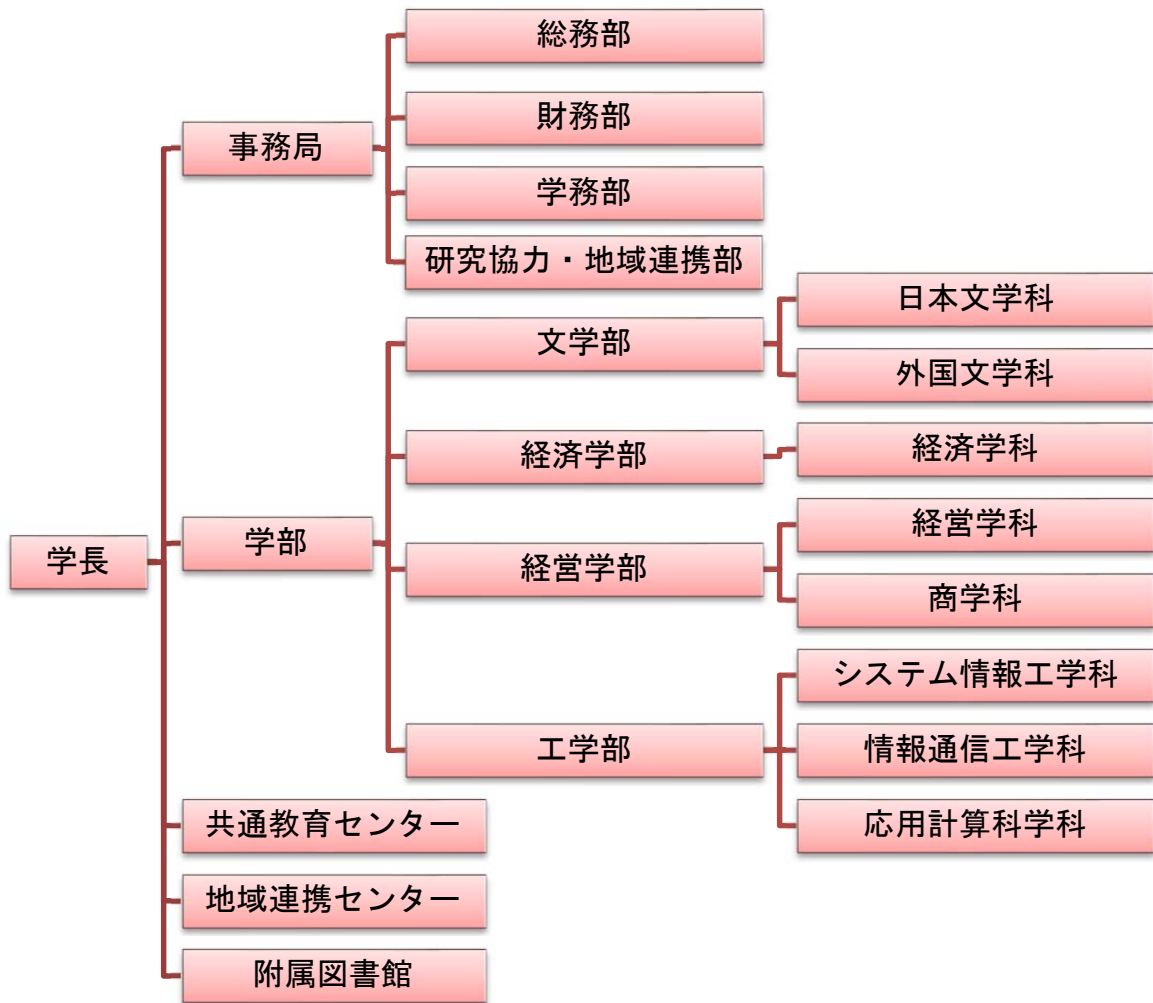
社会貢献

- ・教育成果や研究成果を地域に還元し、地域に貢献する。

国際交流

- ・学生への支援を充実させて留学生の受入と学生の派遣を活発にし、大学の国際化を図る。

■評価大学の組織



■教職員数（常勤）

平成 24 年 5 月 1 日現在

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	小計	職員
文学部	15	3	2	0	20	
経済学部	25	12	3	0	40	
経営学部	36 (8)	10 (2)	4	0	50	
工学部	32	18	7	3	60	
事務局						30
計	115	43	9	3	170	30

※括弧内は、実務教員を内数で示す。

■学生数

平成 24 年 5 月 1 日現在

学部・学科	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
文学部	100	98	400	384
経済学部	200	184	800	728
経営学部	200	182	800	748
工学部	300	306	1,200	1,258
計	800	770	3,200	3,118

■各学部の教育目標

文学部

- ・全人的教育を実施し、幅広い教養もった人材を育成する

経済学部

- ・経済理論を理解し、社会における課題を解決するために知識を発揮できる人材を育成する

経営学部

- ・経済理論を理解しつつ、現実の企業経営に必要な知識を有する人材を育成する

工学部

- ・高度な知識、技能を有し、社会のニーズ必要とする専門的職業人を育成する

■校地・キャンパス

〒650-0047 神戸市中央区港島南町7-7-4

ポータルライナー「京コンピュータ前」駅から徒歩8分